ボアジチ大学

交換留学報告書

静岡県立大学国際関係学部国際言語文化学科 4 年

トルコで7か月間の留学を終えたのでここに報告する。本来秋学期と春学期の2学期留学を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で3月終盤にて留学中止となった。7か月間という短い期間であったが、人生で初めての海外生活だったので、すべてのことが新しく刺激的な経験となった。日本との違いに着目して、トルコでの生活と大学生活の2点について述べたいと思う。

一つ目は大学生活について。学生たちから学んだことは沢山ある。講義は今まで日本で受けていたものとは大きく異なるものであった。私は社会学部の授業と観光学部の授業をいくつか履修した。多くの授業では、教授が学生に疑問を投げかける形で進められた。学生たちは皆意見を積極的に述べ、時には講義のレクチャーをそっちのけで議論に発展することもあった。そして、疑問があればすぐに表明する、そんな学生の姿に圧倒された。日本で受けていた講義は、あくまでも私個人の考えだが、どちらかと言えば学生が受け身になっている印象で、疑問や意見があっても気軽に発言できないような雰囲気を感じていた。しかしボアジチ大学での講義は学生主体で進んでいく。はじめはその勢いに驚くばかりだったが、おいて行かれないように、常に挙げられたトピックに意見や疑問を持つよう意識して講義に臨んだ。また、語学習得に積極的な学生が多かった。大学入学前から独学で語学を習得して3か国語を操ることが出来、更に大学で数言語のクラスを履修する学生。ゲームや映像作品、ソーシャルメディアを利用するなど、工夫して語学勉強に励む学生。数か国へ留学に行った学生もいる。将来仕事に就く為に語学を重視している学生がとても多いと感じた。改めて語学の重要性を知ると共に、まだまだ努力不足だと痛感させられた。

二つ目はトルコ、特にイスタンブルについて。イスタンブルは市の真ん中にボスポラス海峡を挟みヨーロッパ側とアジア側に分かれている。主な公共交通機関にはバス・電車・路面電車・フェリーがあり、イスタンブルカードという交通系ICカードのようなもの一枚ですべてを利用することが出来る。この仕組みは合理的で便利だと感じたことの一つだ。イスタンブル以外でも、それぞれその市の名前が付いた交通カードがあり、同じよう

に公共交通機関が利用できる。どの公共交通機関でも一定運賃を先に支払う為、どこまで行っても運賃は変わらずとても利用しやすかった。他に合理的だと感じたのは飲食店での割り勘の支払いだ。日本で割り勘というと、内輪でお金を出し合い均等に払うというのが一般的で、もしくは店員に別会計を頼むというのが私の認識である。トルコでは、注文した品の単価に関わらず合計金額から割り勘をするのが一般的だった。日本にいた頃はそのような発想を知りもしなかった為、これはとても便利だと感じた。飲食店に関連させて、印象深かったことはデリバリーサービスの多さである。日本でも Uber Eats などのデリバリーサービスが年々増加傾向にあるが、イスタンブルの方が圧倒的に多いと感じた。ほとんどの飲食店はデリバリーサービスも並行して行っており、スマートフォンのデリバリー専用アプリケーションや電話注文を介して深夜まで利用可能な店舗が多い。新型コロナウイルスの蔓延防止策で飲食店のイートインの営業が不可能になった際は、その価値がとても大きく感じられた。次にイスラム教について。トルコでは統計上大多数の人がムスリムだと言われている。町には必ずモスクがあり、早朝からエザンが流されている。エザンは礼拝の時刻を告げる呼びかけのことである。モスクだけでなく、学校や大きなショッピングモールや観光施設には礼拝室が必ず設けられている。そして、豚肉を扱っているスーパーマーケットや飲食店はほぼないに等しい。このようにトルコの生活のベースにイスラム教が存在しているが、実際に留学を開始してから驚いたことがある。トルコには留学するまで一度も訪ねたことが無かった為、ほとんどの人が信心深く、お酒を飲まず、女性は皆肌の露出を控えヒジャブを着用しているのだと思っていた。いわゆるステレオタイプである。しかしその予想がひっくり返されるように、イスタンブルには世俗的な印象を強く受けた。ヒジャブを着用していない女性が多く、自由で開放的なファッションをしている人が多く、商店街には酒屋があったりと、行く前に想像していたものとは異なっていた。もちろんイスラム教通りの教えにならって生活しているムスリムの友人も多くいれば、ある友人はイスラム教を全く信仰しておらず、親もそうだという、またある友人は、本当はイ

スラム教で祈りもするべきだが家族共していない、またまたある友人は、生まれてから高校生までは家族と同じように信仰をしていたが、大学生になり宗教観が変化して自分から信仰をするのをやめたという。イスラムの影響が色濃いトルコだが、個人の考えは様々であった。大学のイスラム研究会に所属する友人によると、個人の信仰の度合いによって、どれだけ生活スタイルをイスラムの教えと共にするのか決まると話を聞いた。つまり、女性なら信仰しているからといって必ずしもヒジャブをつけているとは限らないということである。この経験により、宗教における多様性を知った。このことは実際にイスタンブルにこなければわからないことであり、実際に触れて感じることの大切さを学んだ。

留学で見たこと感じたことすべては、自身の多文化理解を深めた。文化背景がまったく異なる人々と出会い、それぞれが持つ価値観が百人百様であることを体感した。そして物事に対する考え方を柔軟にさせた。これからも社会の変化に敏感に、常に自分の価値観をアップデートしていきたい。